

日本原子力学会 標準委員会 基盤応用・廃炉技術専門部会
第104回廃止措置分科会 (R3SC) 議事録

1. 日時 2025年9月25日（木） 13:00-14:30

2. 場所：Web会議（Webex）

3. 出席者：

（委員）岡本主査、目黒副主査、杉山幹事、青井、石原、工藤、黒川、小山、高橋、鳥居、仲田、中村、西村、平井、見上、矢谷、竹野

（常時参加者）佐々木、佐藤、杉村、高塚、深井

（欠席の委員：佐藤、田中、田村）

4. 配布資料

R3SC-104-1 人事案件

R3SC-104-2 第102回廃止措置分科会議事録（案）

R3SC-104-3 第103回廃止措置分科会議事録（案）

R3SC-104-4 2025年度倫理教育の実施状況について

R3SC-104-5 耐震安全の考え方：2013の改定方針について

5. 議事

(1) 一般事項

- ① 17名/20名の回答により分科会成立（委員の2／3以上）を確認した。
- ② 米山委員（日本原電）が退任された。また、竹野氏（日本原電）の委員就任が委員の投票により可決され、本日の審議事項より委員として出席となる。
- ③ 次回分科会は、12月4日 9:30～（オンライン開催）

(2) 前回及び前々回議事録確認 [R3SC-104-2、-3]

特にコメントなし

(3) 【報告】2025年度倫理教育の実施状況について、資料R3SC-104-4のとおり報告することが委員の投票により承認された。

(4) 【審議】耐震安全の考え方：2013の改定方針について [R3SC-104-5]

- 資料R3SC-104-5により耐震安全の考え方：2013の改定方針について、担当の委員から説明された。
- 目黒副主査から、2013年度版における定量的な評価をやり直すことになるのかどうかについて、質問があった。
これに対し担当の委員から、耐震クラスが変化することを示しているところは定性的な記載であるのでそのまま踏襲するが、評価、判断に係る事項は安全評価基準を参照することなどして、基本的な記載を可能な限り活用することが説明された。
さらに担当の委員から、以下の説明があった。

- ・被ばく評価に関しては、プラント展開がしやすいように代表事象を選定して評価できるようにしたい。
- ・工法が異なれば改めて評価が必要になるものがあるかもしれない。
- ・また、地震に対する建屋の実耐力を評価するにあたっては、地震によるダメージの大きさに対応した被ばく評価上の亀裂モデルの設定が必要であり、そのために耐震解析を実施し、亀裂の大きさによる線量への影響を検討することとしている。
- 岡本主査から、SFPとそれ以外を章を分けて示したほうがいいのではないか、との意見があった。
このことに対し担当の委員から、現行においても、燃料がある場合は運転中に準ずること、冷却が進み危険性が低下した場合は相応の対応ができることが記載されているとの説明があった。また、担当の委員から、燃料に関しては、被ばく影響だけでなく、臨界防止に関する要件もあるので、それらを含めた記載を考えており、燃料搬出前の状態に関する記載を明示するなどを今後検討する旨の発言があった。
- 岡本主査から、資料に示された方向性にそって検討をすすめること、また、現場で使いやすいように検討するよう指示があった。

(5) その他

- 改定の参考のため、耐震安全の考え方：2013版の電子データを委員限定で配付する。終了後廃棄すること。
- 常時参加者について、出席者を今回から確認すること、また、倫理教育のURLを杉山幹事から連絡することとなった。

以上